

2022年3月期第2四半期決算

決算説明会資料

株式会社 極 洋 (証券コード: 1301)

<https://www.kyokuyo.co.jp>

食卓に、海のおいしさと、おどろきを。



<https://www.seamarche.jp>



目次



中期経営計画『 Build Up Platform 2024 』スタート

- ・基本方針と目標値 3ページ
- ・事業戦略 4ページ
- ・2022年3月期上半期のトピックス 5～6ページ

2022年3月期 第2四半期 決算概要

- ・計算書類 8～16ページ
- ・事業セグメント別の状況 17～22ページ

2022年3月期 下半期施策及び業績予想

- ・事業セグメント別の下半期施策 24～25ページ
- ・業績予想 26ページ
- ・設備投資計画 27ページ



中期経営計画

『 Build Up Platform 2024 』

スタート



基本方針と目標値



➤ 基本方針

経営基盤の強化を図りながら、「事業課題への継続的取組み」と「持続的成長への挑戦」を柱とする戦略を進め、社会と極洋それぞれが共有すべき価値を創造していくことで、新たな成長への礎となる「高収益構造への転換」を目指す。

➤ 中期経営計画の最終年度(2024年3月期)目標値

売上高	3,000億円
営業利益	70億円
経常利益	65億円
海外売上高	300億円
有利子負債資本倍率(D/Eレシオ)	1.5倍
営業利益率・経常利益率	2%超



事業戦略

高収益構造への転換

社会と極洋の共有価値の創造

- ・生物多様性の保全
- ・脱炭素社会、資源循環型社会の実現
- ・健康で心豊かな生活と食文化への貢献

様々な社会問題

様々な社会問題

事業課題への継続的取組み

食品事業・海外事業の拡大
 水産商事事業・養殖事業の収益安定化
 資源アクセスの強化

持続的成長への挑戦

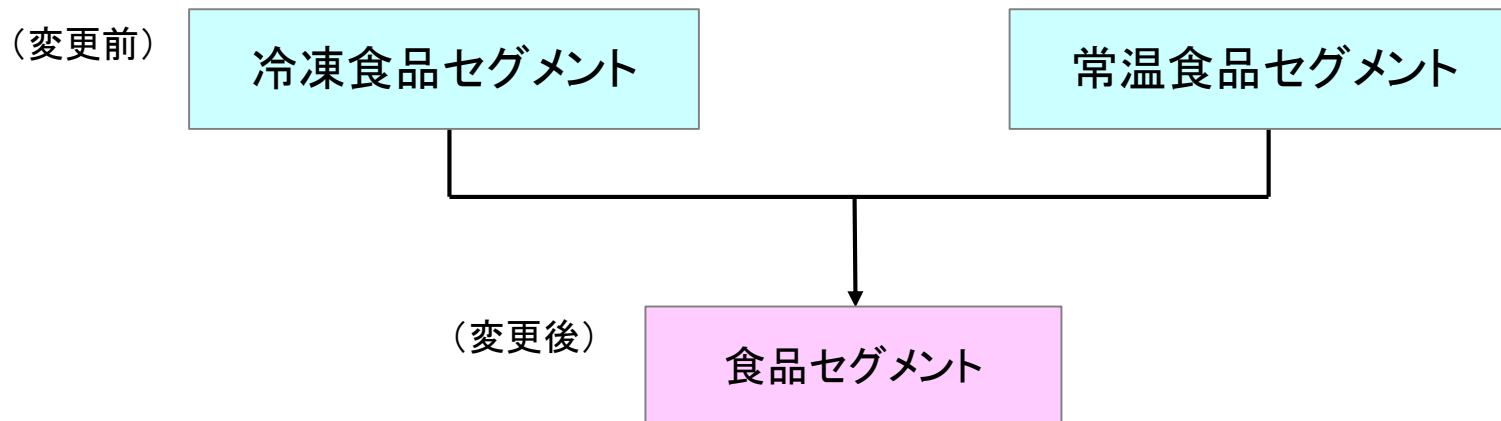
商品開発・ブランド力の強化
 食の楽しみへのこだわり
 DXの推進
 2050年 カーボンニュートラル

経営基盤(事業基盤・財務基盤・人材基盤等)の強化、ESG経営

□ 機構改正 【4月】

食品部門：商品別の組織から業態別の組織に再編成し、販売力を強化。

□ セグメント変更 【4月】



□ 新企業CMの放映開始【4月】

- おいしいの先にある「生活を楽しむための食」を表現。



□ 海外まき網船新船 起工 【7月】

- カツオ・マグロを漁獲する、(株)極洋水産の海外まき網新船 起工。
- 2022年2月 進水、8月 竣工予定。



※海外まき網船イメージ(写真は既存船「第7わかば丸」)



※水揚げ風景イメージ



2022年3月期 第2四半期 決算概要



計算書類



1. 連結損益計算書

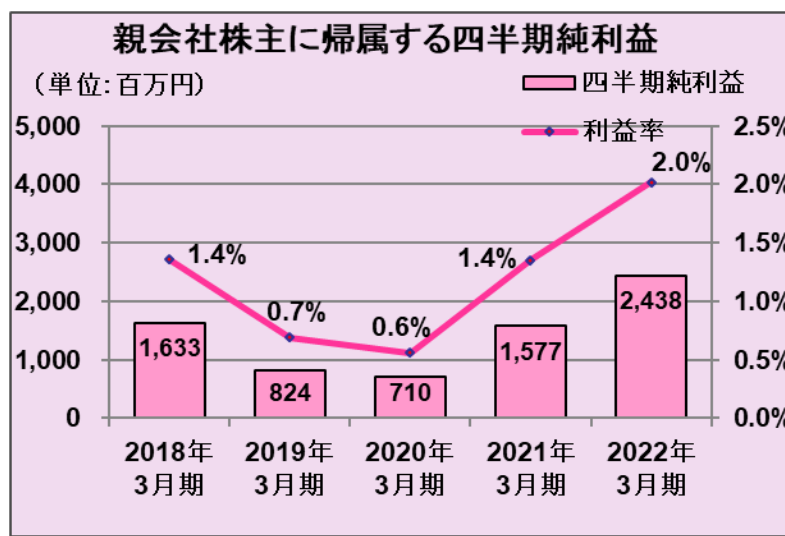
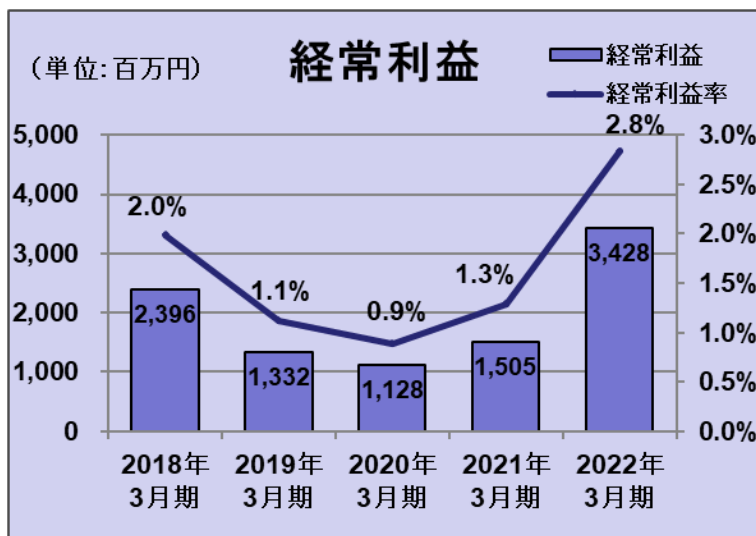
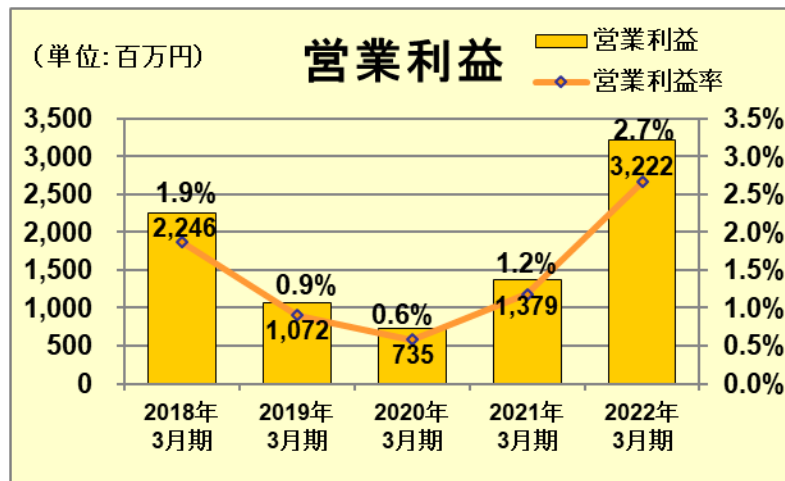
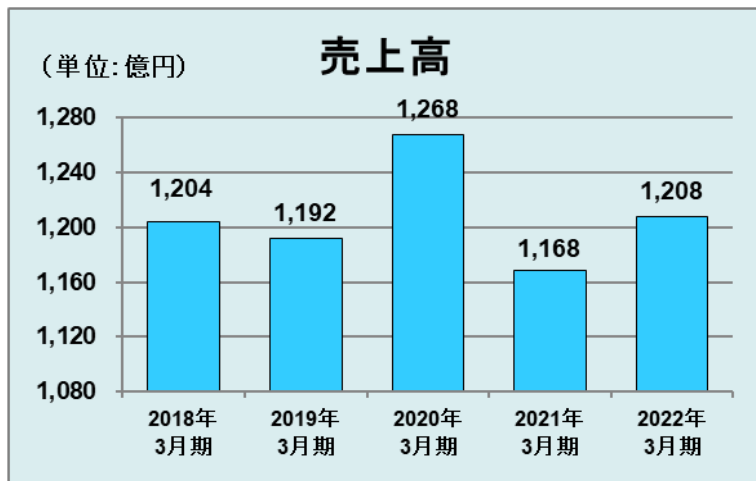
(単位:百万円)

	実績		前年同期比		当初 通期予想	当初通期予想比
	第2四半期連結累計期間		(増減金額)	(増減比率)	連結累計期間	
	2021年3月期 (前期)	2022年3月期 (当期)			2022年3月期 (当期)	(達成率)
売上高	116,861	120,880	4,018	3.4%	250,000	48.4%
営業利益	1,379	3,222	1,842	133.6%	5,000	64.4%
営業外収益	376	454	77	—	—	—
営業外費用	250	247	△2	—	—	—
経常利益	1,505	3,428	1,922	127.7%	5,000	68.6%
特別利益	1,465	39	△1,425	—	—	—
特別損失	730	48	△682	—	—	—
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	1,577	2,438	860	54.5%	3,500	69.7%

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を2022年3月期の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

- ・ 当 初 予 想 : 2021年5月14日に発表した2022年3月期業績予想数値
- ・ 売 上 高 : 食品セグメントを除く全てのセグメントで増収となり、前期比40億円の増収
- ・ 営 業 利 益 : 水産商事、鰹鮪セグメントで増益となり、全体で前期比2.3倍となる18億円の増益

2. 第2四半期連結業績の推移



※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を2022年3月期の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。



計算書類



3. 個別損益計算書

(単位:百万円)

	実績		前年同期比	
	第2四半期累計期間		(増減金額)	(増減比率)
	2021年3月期 (前期)	2022年3月期 (当期)		
売上高	115,237	111,217	△4,019	△3.5%
営業利益	1,210	2,773	1,563	129.2%
経常利益	1,362	3,014	1,651	121.2%
四半期純利益	2,165	2,132	△33	△1.5%

- ・ 売上高：食品セグメントおよび収益認識会計基準等適用による水産商事の減収などにより、前年同期比40億円の減収
- ・ 営業利益：水産商事セグメントなどで増益となり、前年同期比15億円の増益

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を2022年3月期の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。



計算書類



4. 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2020年 9月末	2021年 9月末	前年 同期比		2020年 9月末	2021年 9月末	前年 同期比
資産の部				負債の部			
流動資産	88,846	95,418	6,572	流動負債	48,606	48,299	△307
受取手形及び売掛金	36,488	31,972	△4,515	内、短期借入金 (含むCP)	27,331	23,448	△3,883
商品及び製品	33,527	40,972	7,444	固定負債	32,522	37,544	5,021
仕掛品	3,960	3,665	△294	内、長期借入金	27,929	32,929	4,999
原材料及び貯蔵品	7,013	6,792	△221	負債合計	81,129	85,843	4,713
その他	7,857	12,015	4,159	純資産の部			
固定資産	26,764	32,010	5,246	株主資本	33,040	36,874	3,834
有形固定資産	15,582	18,025	2,442	その他の包括利益累計額	1,994	5,195	3,200
無形固定資産	500	387	△113	非支配株主持分	△554	△484	69
投資その他の資産	10,681	13,597	2,916	純資産合計	34,480	41,585	7,104
資産合計	115,610	127,429	11,818	負債及び純資産合計	115,610	127,429	11,818



計算書類

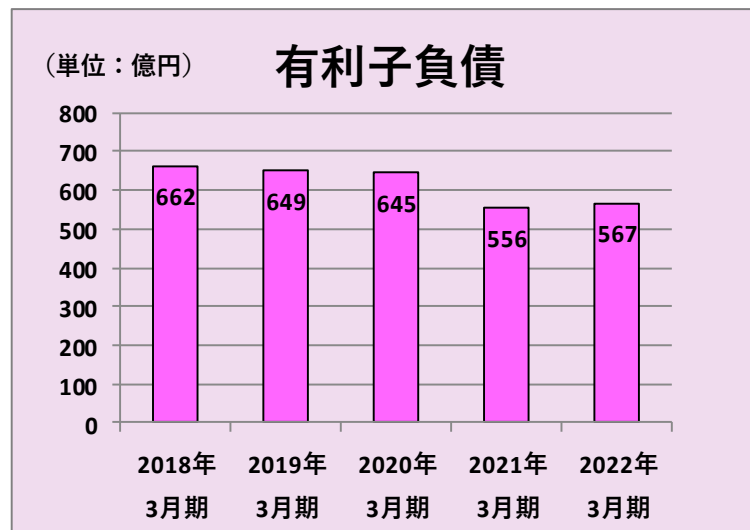
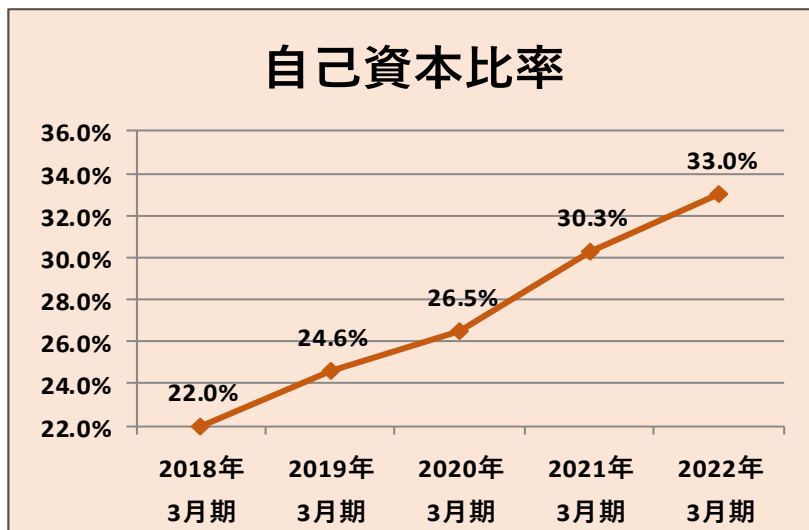
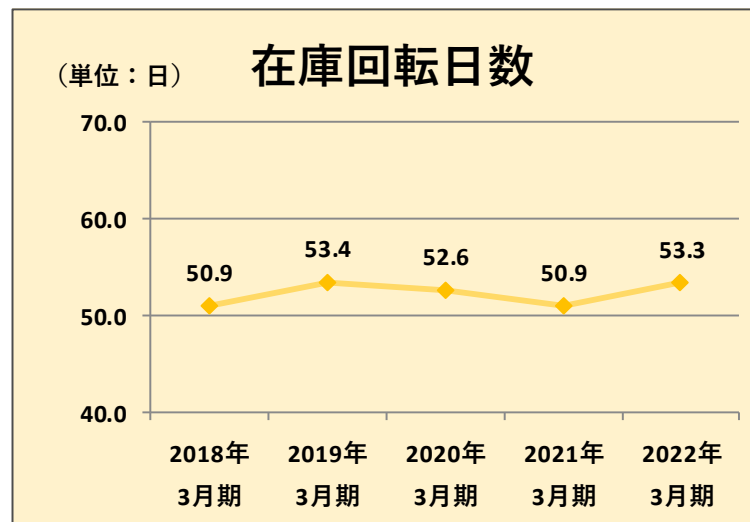
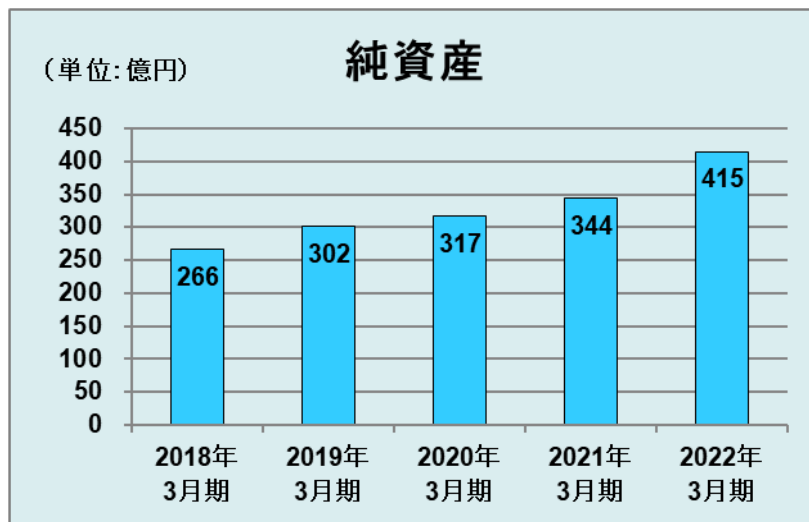


5. 連結キャッシュ・フロー計算書

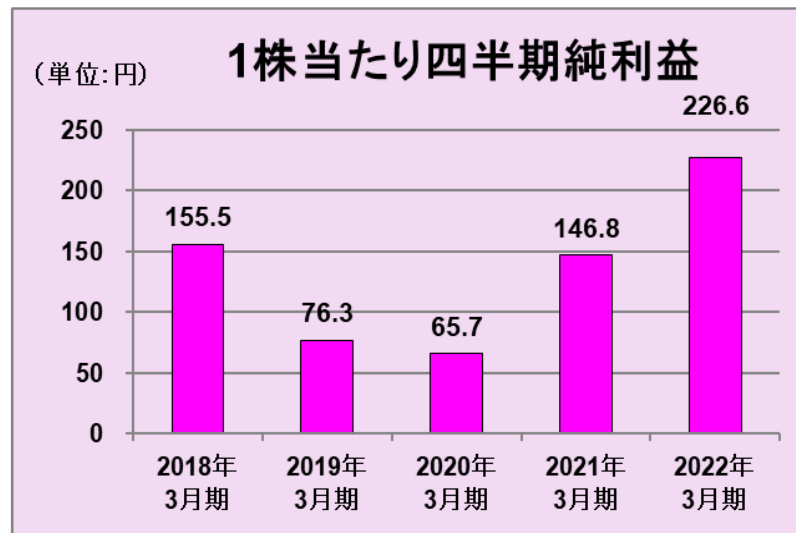
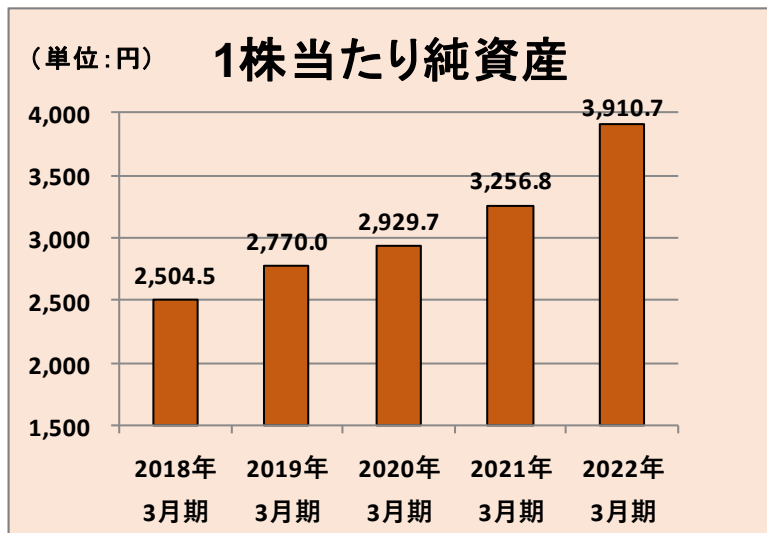
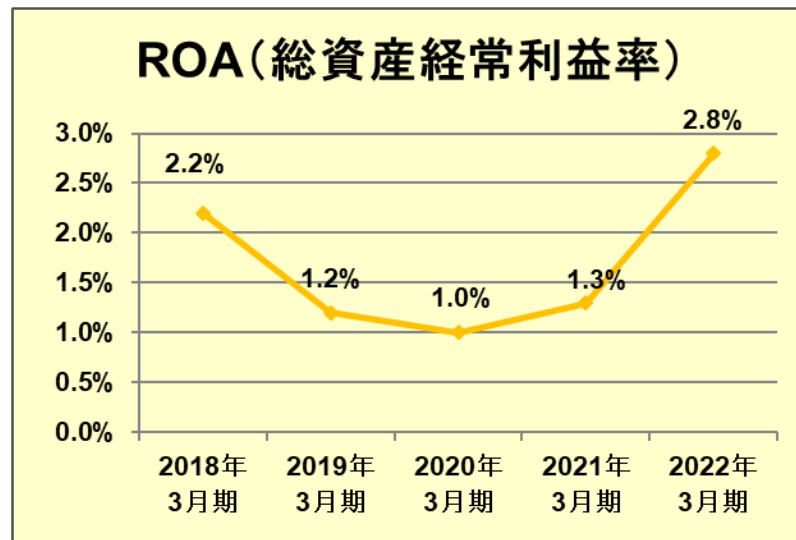
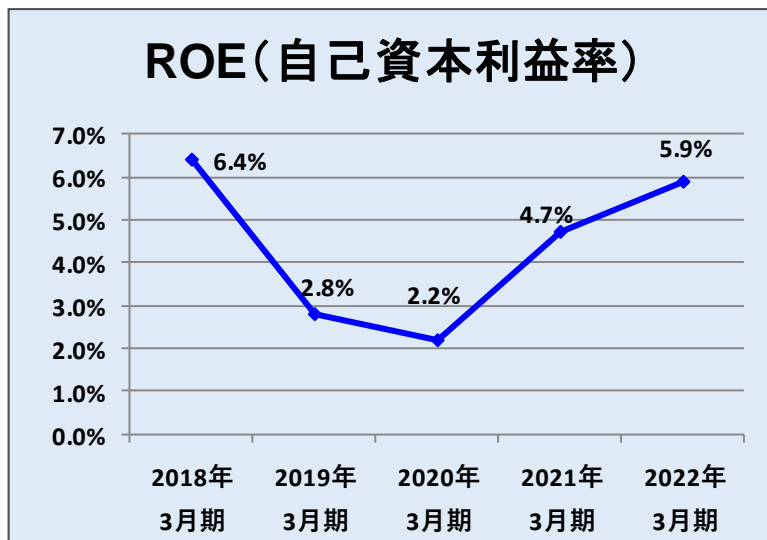
(単位:百万円)

		第2四半期連結累計期間		
		2021年3月期(前期)	2022年3月期(当期)	前年同期比
営業活動による キャッシュ・フロー	税金等調整前四半期純利益	2,240	3,419	1,179
	減価償却費	947	911	△35
	売上債権の増減(△は増加)	△3,113	1,042	4,155
	たな卸資産の増減(△は増加)	△3,516	△9,643	△6,127
	仕入債務の増減(△は減少)	3,145	3,432	286
	その他	△525	△811	△285
	小計	△822	△1,649	△826
投資活動による キャッシュ・フロー	固定資産の取得	△1,171	△3,217	△2,046
	その他	1,833	△47	△1,880
	小計	661	△3,265	△3,927
財務活動による キャッシュ・フロー	短期借入金の増減(△は減少)	△4,633	3,913	8,546
	長期借入れの増減(△は減少)	5,246	1,619	△3,626
	その他	△907	△950	△42
	小計	△293	4,583	4,877

6. 第2四半期連結財務指標の推移



7. 第2四半期連結経営指標の推移





計算書類



8. 事業セグメント別 売上高及びセグメント利益<連結>

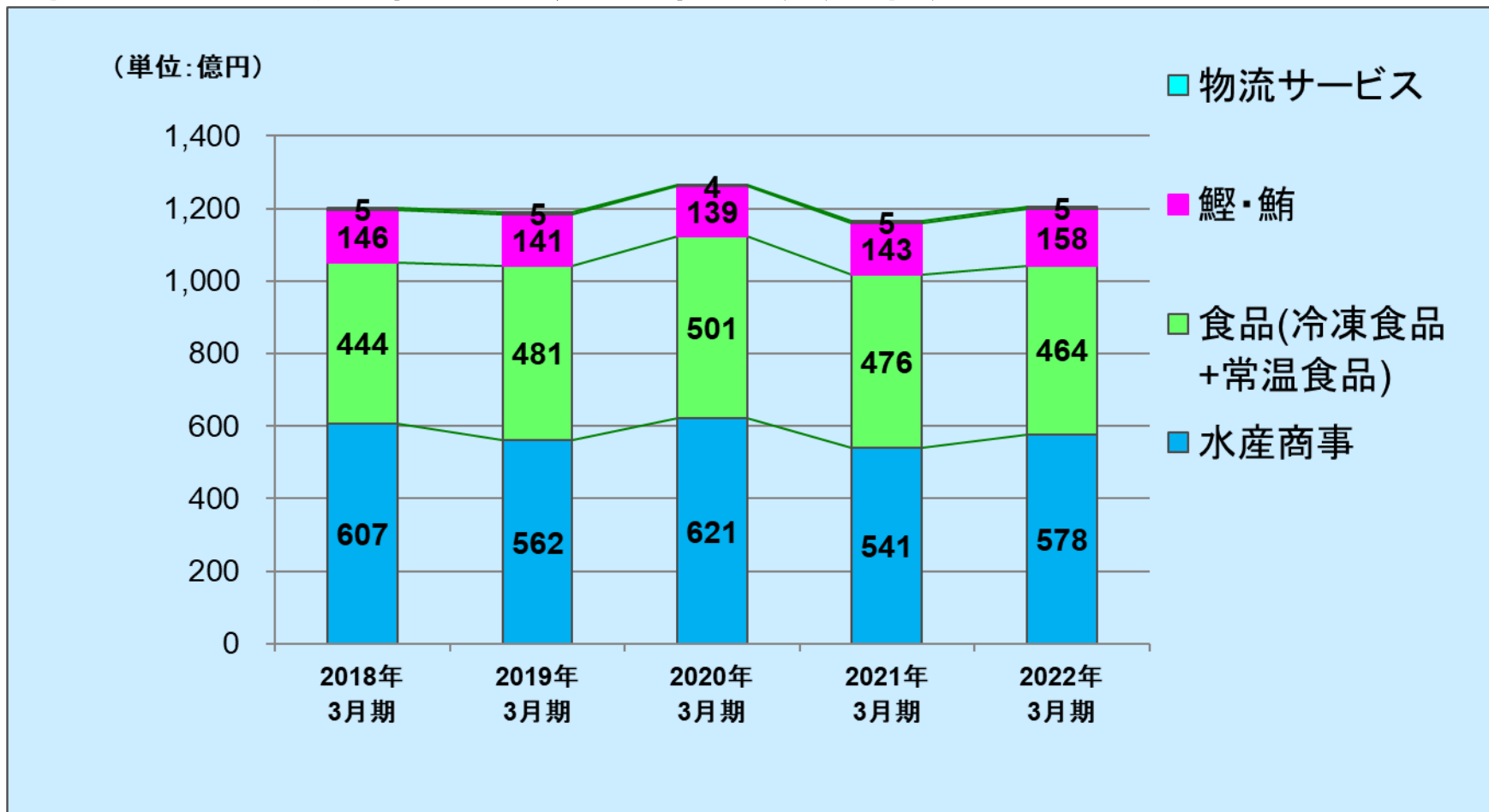
(単位:百万円)

	売上高			セグメント利益		
	第2四半期連結累計期間		前年同期比	第2四半期連結累計期間		前年同期比
	2021年3月期(前期)	2022年3月期(当期)		2021年3月期(前期)	2022年3月期(当期)	
水産商事	54,116	57,848	3,732	1,205	2,574	1,368
食品 (冷凍食品+常温)	47,613	46,471	△1,141	693	620	△73
鰹・鮪	14,394	15,808	1,413	△58	464	523
物流サービス	521	552	31	174	95	△79
その他	215	198	△16	△635	△532	103
合計	116,861	120,880	4,018	1,379	3,222	1,842

※第1四半期連結会計期間より、当社グループ内の管理区分を見直したことに伴い、従来の「冷凍食品」と「常温食品」を統合し、「食品」セグメントに変更しております。なお、2021年3月期以前の数値は、変更後セグメント区分に組み替えた数値です。

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を2022年3月期の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

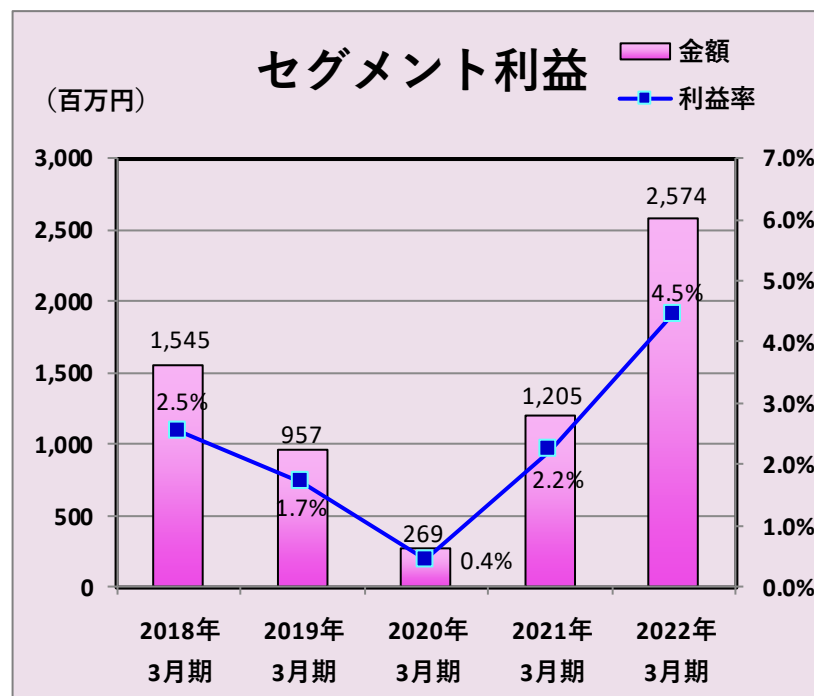
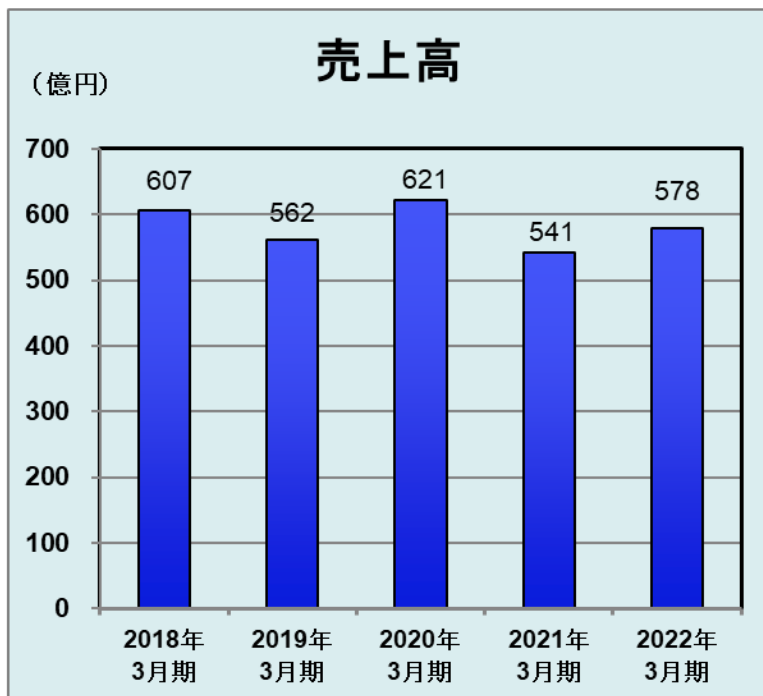
9. 事業セグメント別 第2四半期売上高比較<連結>



※第1四半期連結会計期間より、当社グループ内の管理区分を見直したことに伴い、従来の「冷凍食品」と「常温食品」を統合し、「食品」セグメントに変更しております。なお、2021年3月期以前の数値は、変更後セグメント区分に組み替えた数値です。

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を2022年3月期の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

1. 水産商事事業<連結>…水産物の買付及び販売

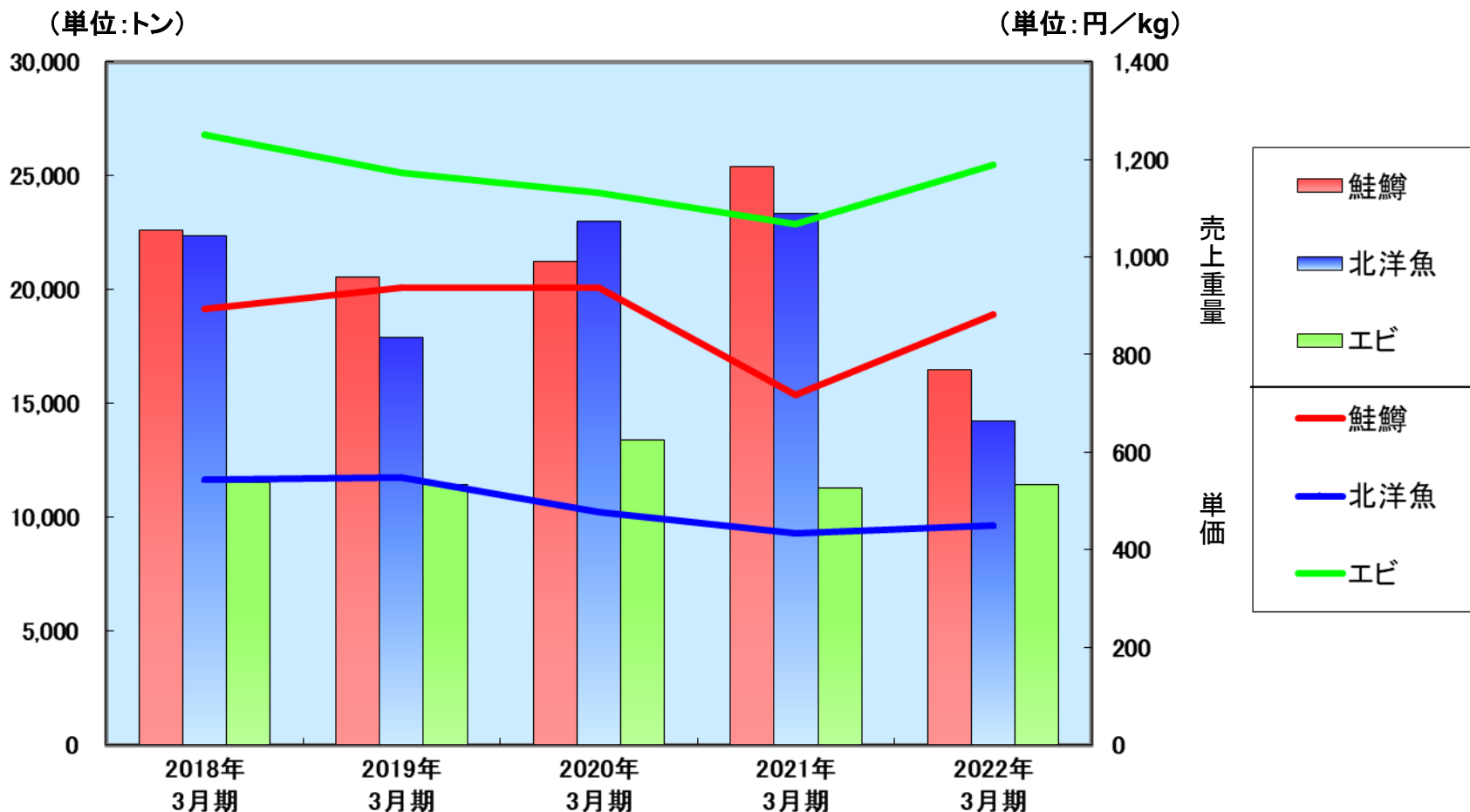


【当期の状況】

- 増収増益
 - 主要魚種のサケ、エビ加工品の販売が量販店を中心に順調に推移
 - ホタテの輸出が伸長

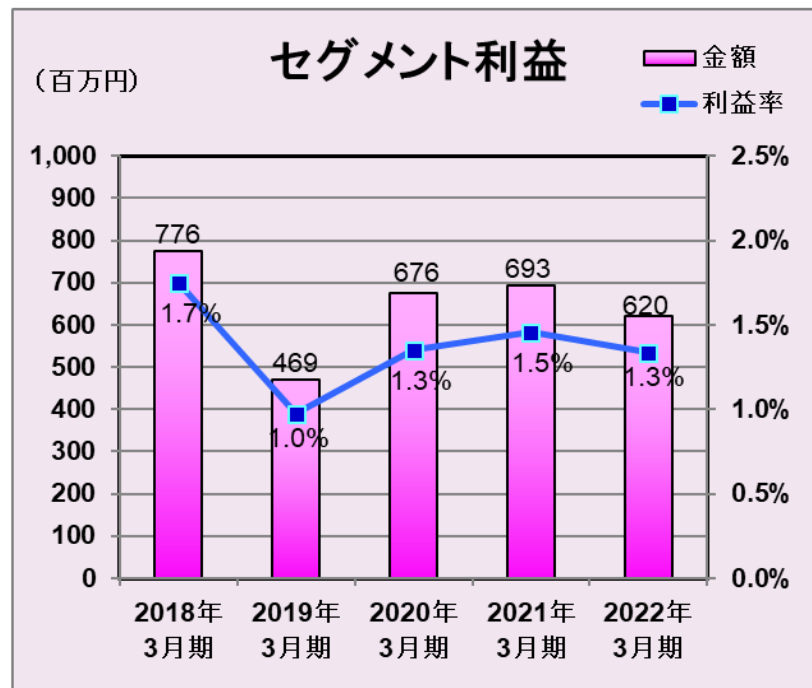
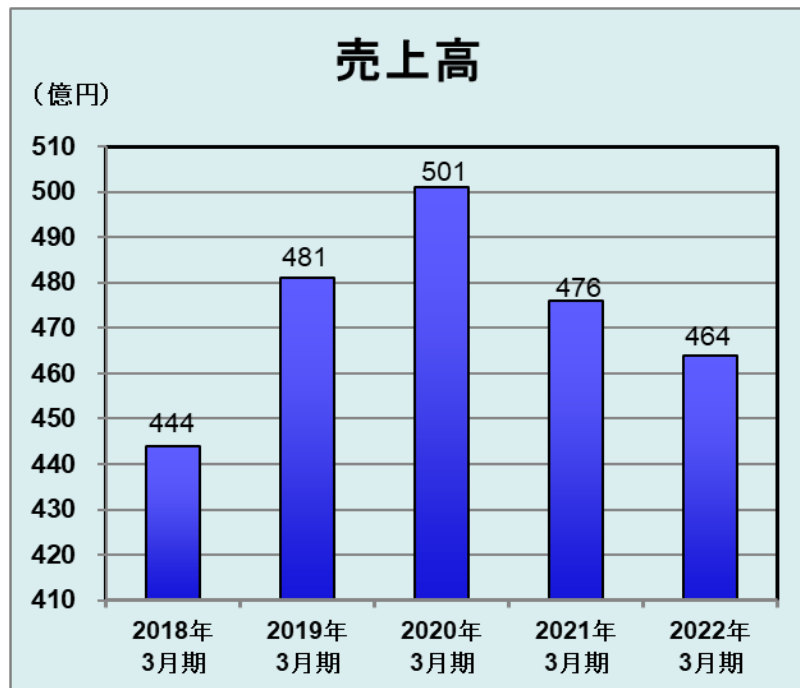
※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を2022年3月期の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

水産商事事業〈個別〉…魚種別売上重量・単価推移



※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を2022年3月期の期首から適用しています。これにより、有償支給取引については、支給品を買い戻す義務を負っている場合、当該支給品の消滅を認識しない方法に変更しております。2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

2. 食品事業<連結>…食品の加工及び販売



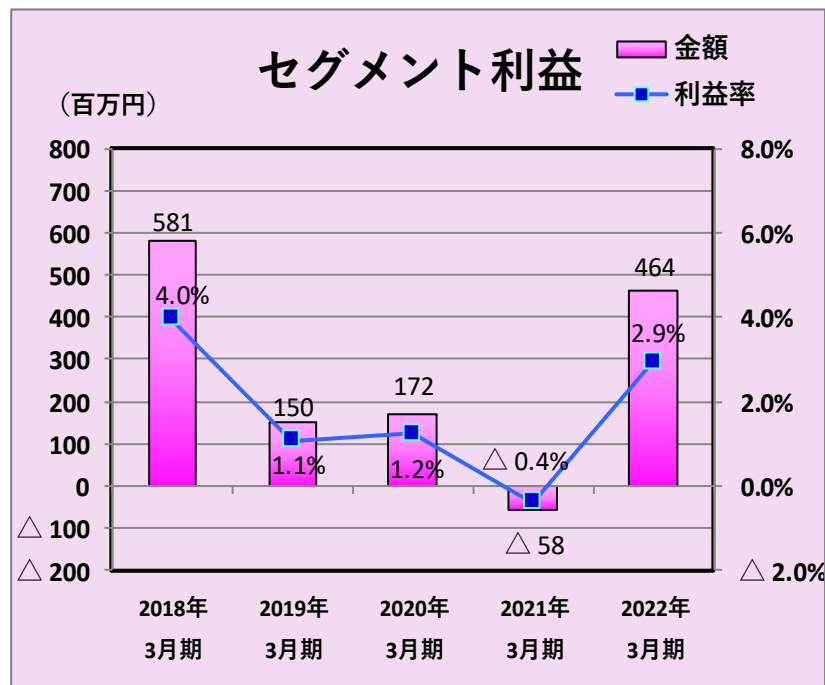
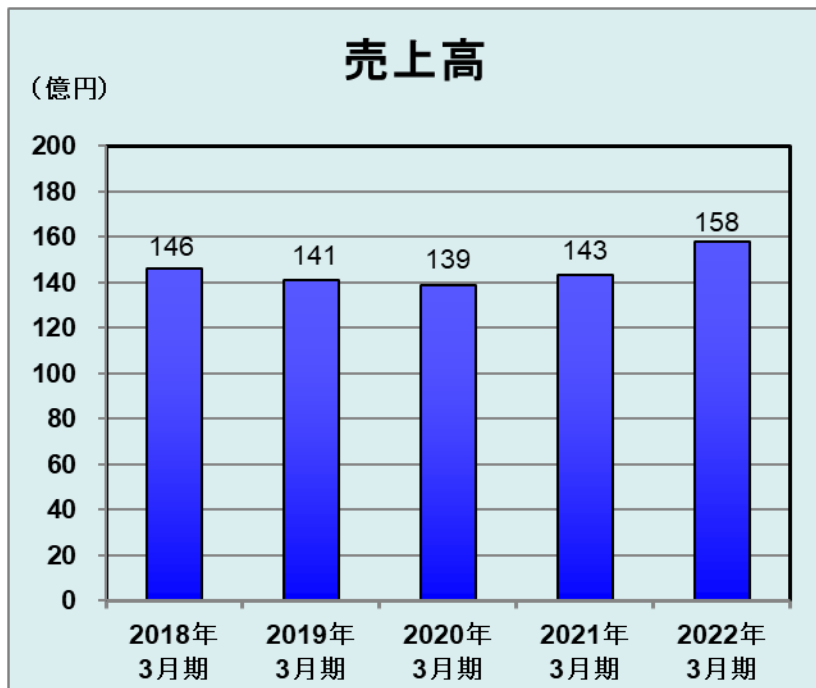
【当期の状況】 ▶ 回転寿司ルートでは一定の販売を確保

- 減収減益
 - ▶ 緊急事態宣言による自粛の影響で、外食や産業給食全般に販売減少
 - ▶ 市販用冷凍食品は魚惣菜商品が前年同期を上回る
 - ▶ 缶詰は市場競争激化で主力量販店での販売低迷
 - ▶ 原材料の高騰や海上運賃の上昇が収益を圧迫

※第1四半期連結会計期間より、当社グループ内の管理区分を見直したことに伴い、従来の「冷凍食品」と「常温食品」を統合し、「食品」セグメントに変更しております。なお、2021年3月期以前の数値は、変更後セグメント区分に組み替えた数値です。

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を2022年3月期の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

3. 鰹・鮪事業〈連結〉…海外まき網事業・養殖事業・鰹鮪加工販売事業



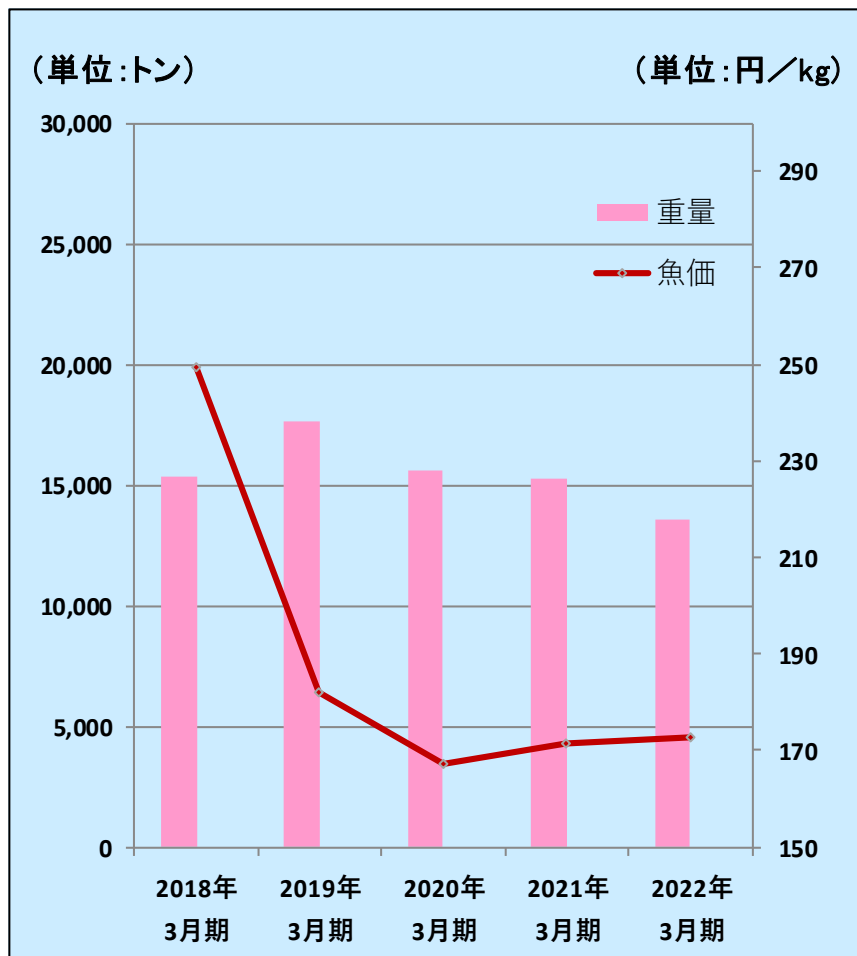
【当期の状況】 □ 増収増益

- 《海外まき網事業》 ➤ 水揚げ数量が減少し、魚価回復の兆し見られるも収支が低迷
- 《養殖事業》 ➤ 国産養殖クロマグロの取扱い増加
- 《加工販売事業》 ➤ 輸入冷凍クロマグロ、インドマグロの取扱いが増加
➤ 赤身原料価格の高騰でネギトロなどの加工品は苦戦

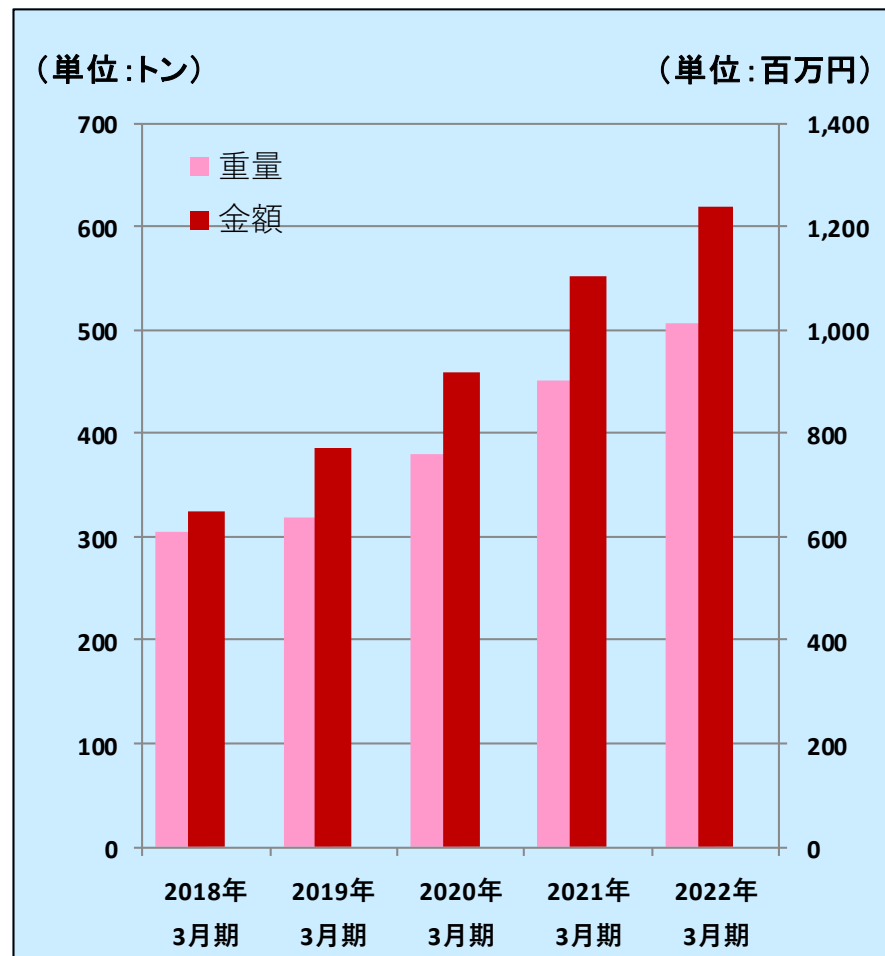
※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を2022年3月期の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

鯉・鮪事業(上半期)

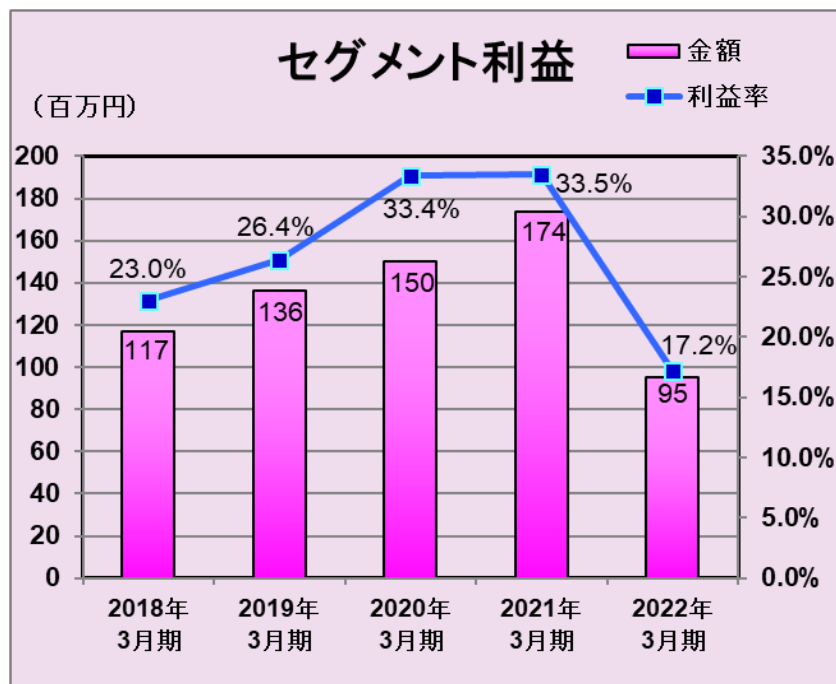
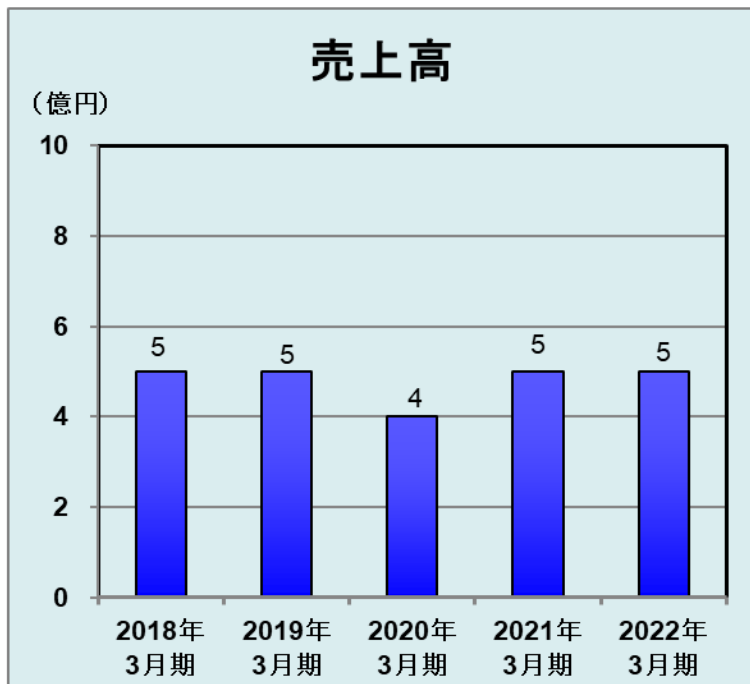
〈海外まき網事業〉…水揚げ推移



〈養殖事業〉…売上推移



4. 物流サービス事業<連結>…冷蔵倉庫事業



【当期の状況】

- 増収減益
 - 冷蔵倉庫事業は外国貨物の搬入減少で在庫量が落ち込み
 - 配送事業の新規顧客獲得を強化

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を2022年3月期の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。



2022年3月期 下半期施策及び業績予想



事業セグメント別の下半期施策



➤ 事業セグメント別の下半期施策

【水産商事セグメント】

- 市場環境を見極めた買付と加工管理の徹底
- 高付加価値加工品の販売拡大
- 海外拠点と連携した海外市場向け商品開発と販路開拓

【食品セグメント】

- 業態別販売戦略の深耕
- 直系工場商品の販売拡大
- 極洋の調達力、加工力が活かした冷凍食品の売上規模拡大
- 主力青物缶詰、ツナ缶の販売拡大



事業セグメント別の下半期施策



【鰹・鮪セグメント】

- 好調な国産養殖クロマグロの販売拡大
- 豊漁の東沖トロカツオ商材への注力

【物流サービスセグメント】

- キョクヨーグループの在庫を核とした庫腹の最適化
- 輸出業務、配送業務の強化

➤ 事業セグメント別業績予想〈連結〉

(単位:百万円)

	売上高			セグメント利益		
	2022年3月期 第2四半期実績	2022年3月期 通期予想	達成率	2022年3月期 第2四半期実績	2022年3月期 通期予想	達成率
水産商事	57,848	114,000	50.7%	2,574	3,000	85.8%
食品 (冷凍食品+常温食品)	46,471	105,000	44.3%	620	2,000	31.0%
鰹・鯖	15,808	30,000	52.7%	464	1,000	46.4%
物流サービス	552	1,000	55.3%	95	200	47.5%
その他	198	0	—	△532	△1,200	—
合計	120,880	250,000	48.4%	3,222	5,000	64.4%



設備投資計画



➤ 2022年3月期 設備投資計画

	概要	2022年3月期 9月末実績	2022年3月期 計画
極 洋	塩釜工場関連	0億円	2億円
	生産工場関連	0億円	2億円
	研究所関連	0億円	1億円
	養殖事業海上	0億円	0億円
	IT関連その他	1億円	5億円
	計	2億円	10億円
関係会社	生産工場関連	7億円	23億円
	まき網事業関連	22億円	1億円
	養殖事業海上	1億円	1億円
	IT関連その他	0億円	1億円
	計	30億円	27億円
合計		32億円	37億円



本資料は、2021年9月末までの業績及び今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的として作成しており、必ずしも投資をお勧めするものではありません。

本資料に含まれる業績予想及び将来の予測は、現時点で入手される情報に基づくものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

したがって、実際の業績は、様々な要因により、これらの予想と異なることがありますのでご承知おきください。

当資料に対する問い合わせ窓口

株式会社 極 洋 経営管理部 電話03-5545-0703

本資料は株式会社極洋が作成したものであり、内容に関する一切の権利は当社に帰属します。複写及び無断転載はご遠慮ください。